

ポストコロナ時代 インド株式市場に注目する3つのポイント

2021年7月

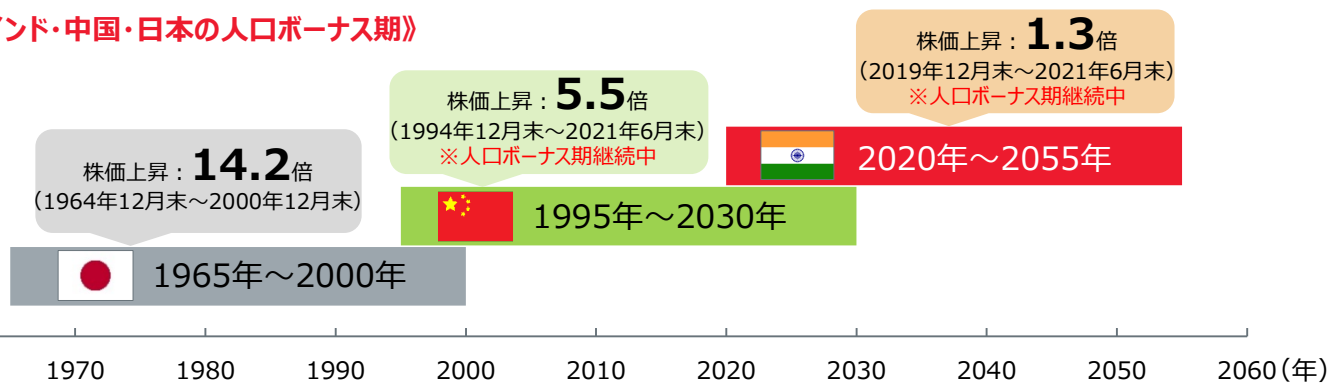
IMF（国際通貨基金）によると、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）により2020年に落ち込んだインドのGDP（国内総生産）成長率は、2021年以降大幅に回復すると予想されています。当資料では、新型コロナウイルス新規感染者数の減少とともに堅調に推移するインド株式市場が、中長期的に魅力ある市場であることを3つのポイントに絞ってご紹介します。

Point 1

高成長が継続するインド、人口ボーナス期*に突入しこれからの株価上昇に期待

人口ボーナス期は、生産活動が活発になることから経済成長が加速し、それに伴って企業業績が拡大する傾向にあるため、過去日本や中国の株式市場においては株価が大きく上昇しました。インドはまさに**人口ボーナス期に突入したばかり**で今後中長期で株価上昇が期待されます。

《インド・中国・日本の人口ボーナス期》



*人口ボーナス期とは、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）がその他の人口の2倍以上にある期間のことを指します。

出所：Bloomberg.L.P.、国際連合（World Population Prospects 2019）のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

株価上昇は右記指数を使用。日本:東証株価指数（TOPIX）、中国:上海総合指数、インド:SENSEX指数、すべてプライス・リターン、現地通貨ベース。

Point 2

インド経済をけん引する個人消費が安定して拡大

インドの**電気洗たく機**や**乗用車**などの**耐久消費財の普及率は日本の高度経済成長期の水準**であり、**今後本格的な普及**が見込まれています。個人消費の伸びは2040年までに**約7.0倍**（対2020年）になると予想されています。

出所：内閣府、Euromonitorのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

Point 3

急成長するインドのIT産業と高い競争力をもつ医薬品市場に注目

多くのインド人がグローバルIT企業でCEOを務めていることから、「インドといえばIT」のイメージが強く、実際に**インドのIT産業は急成長**を遂げています。また、ワクチン生産能力は **世界一ともいわれており**、コロナを機に特に**高い競争力を持つ医薬品市場**にも改めて注目が集まっています。

《主なインド人IT企業経営者（CEO）》 2021年6月時点

名前	企業
サンダー・ピチャイ	米 アルファベット、グーグル
サティア・ナデラ	米 マイクロソフト
シャントヌ・ナラヤン	米 アドビ
アービンド・クリシュナ	米 IBM

出所：各種報道等に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

当資料の内容は作成日である2021年7月時点で入手できる情報をもとに作成しております。そのため、新型コロナウイルスの感染拡大による影響等が十分に反映できていない可能性があります。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。

最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシアランス社とは関係がありません。

※この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商） 第379号 / 加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

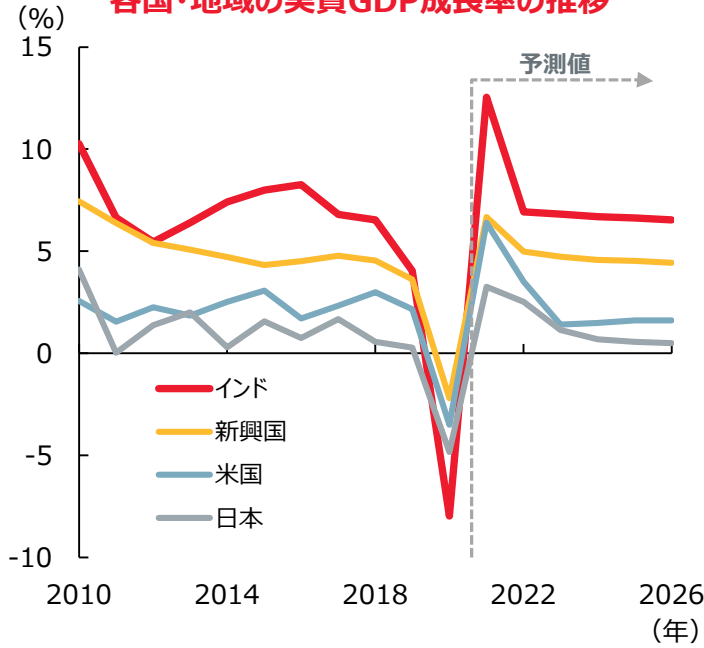
Point

1 高成長が続くインド経済



- 今後も相対的に高い経済成長率が続く見通しです。

各国・地域の実質GDP成長率の推移



実質GDPの年平均成長率

	2016年~2020年	2021年~2026年
インド	3.4%	7.9%
新興国	3.0%	5.1%
米国	1.1%	2.9%
日本	-0.3%	1.6%

出所：IMF世界経済見通しデータベース(2021年4月)のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。2021年以降は予測値。

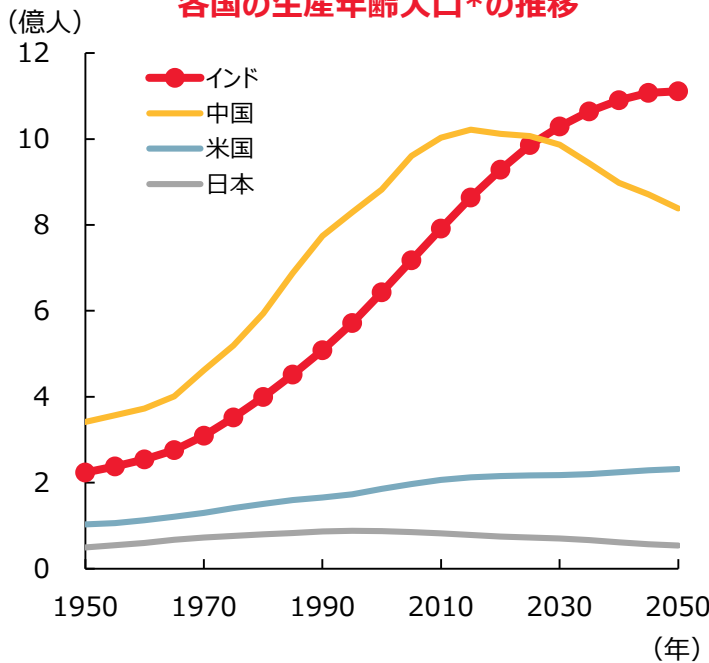
Point

1 若年層が支えるインドの経済成長

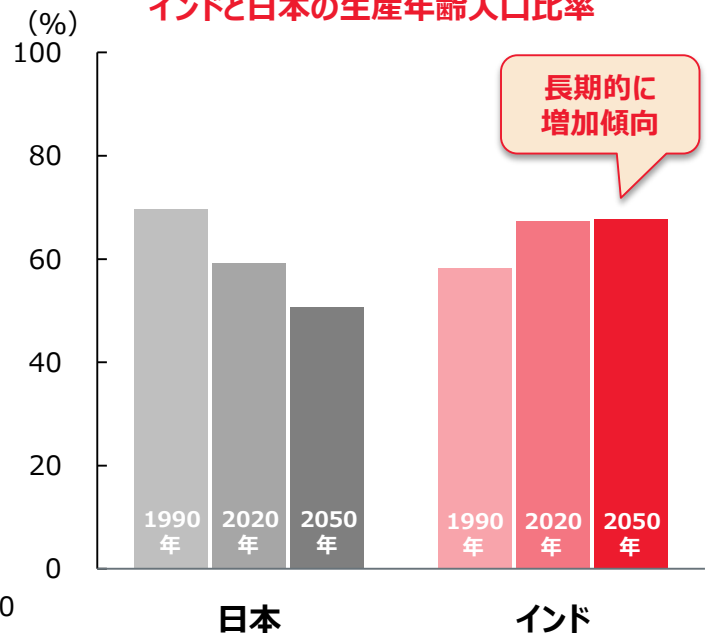


- インドの労働力は長期的に増加すると予想されています。

各国の生産年齢人口*の推移



インドと日本の生産年齢人口比率



出所：国際連合「World Population Prospects 2019」のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。2020年以降は予測値。

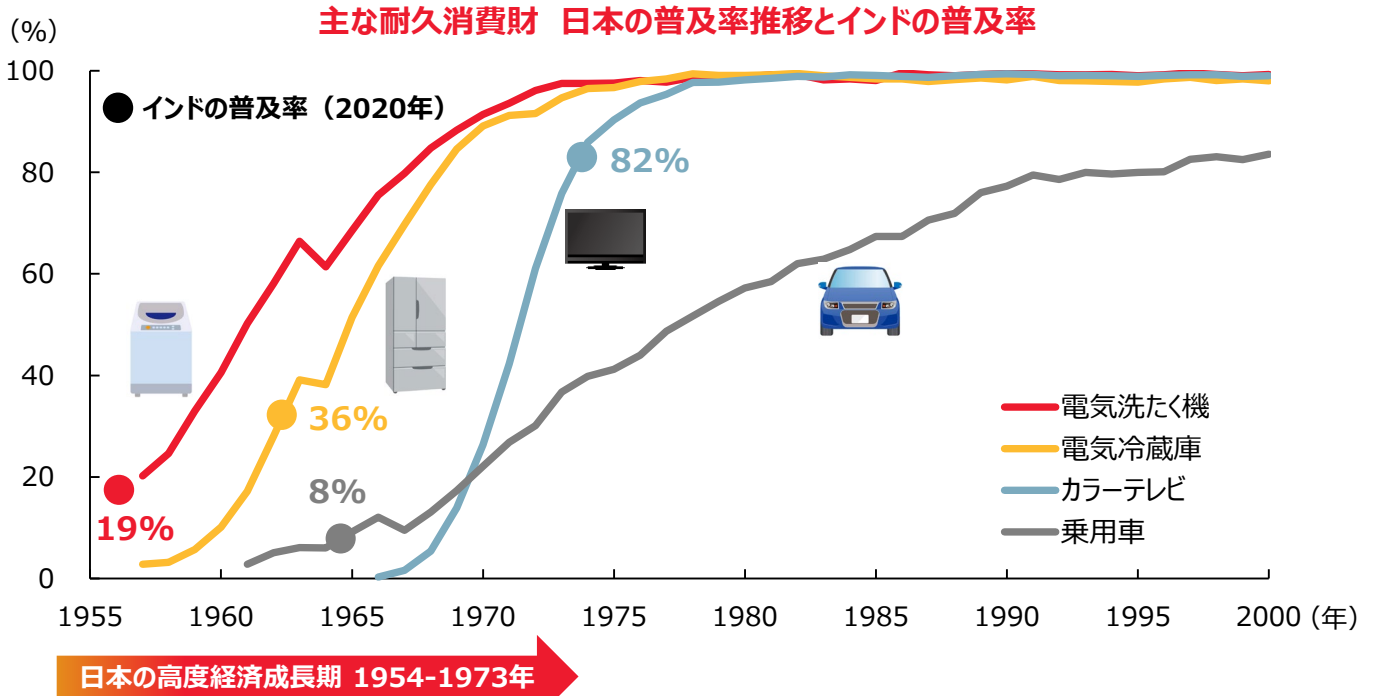
*生産年齢人口は、一般に生産活動に従事しうる、労働力の中核をなす15歳以上65歳未満の人口層のことを指します。

Point

2 普及が進むインドの耐久消費財



- 今後本格的に耐久消費財の普及が進むと期待されます。



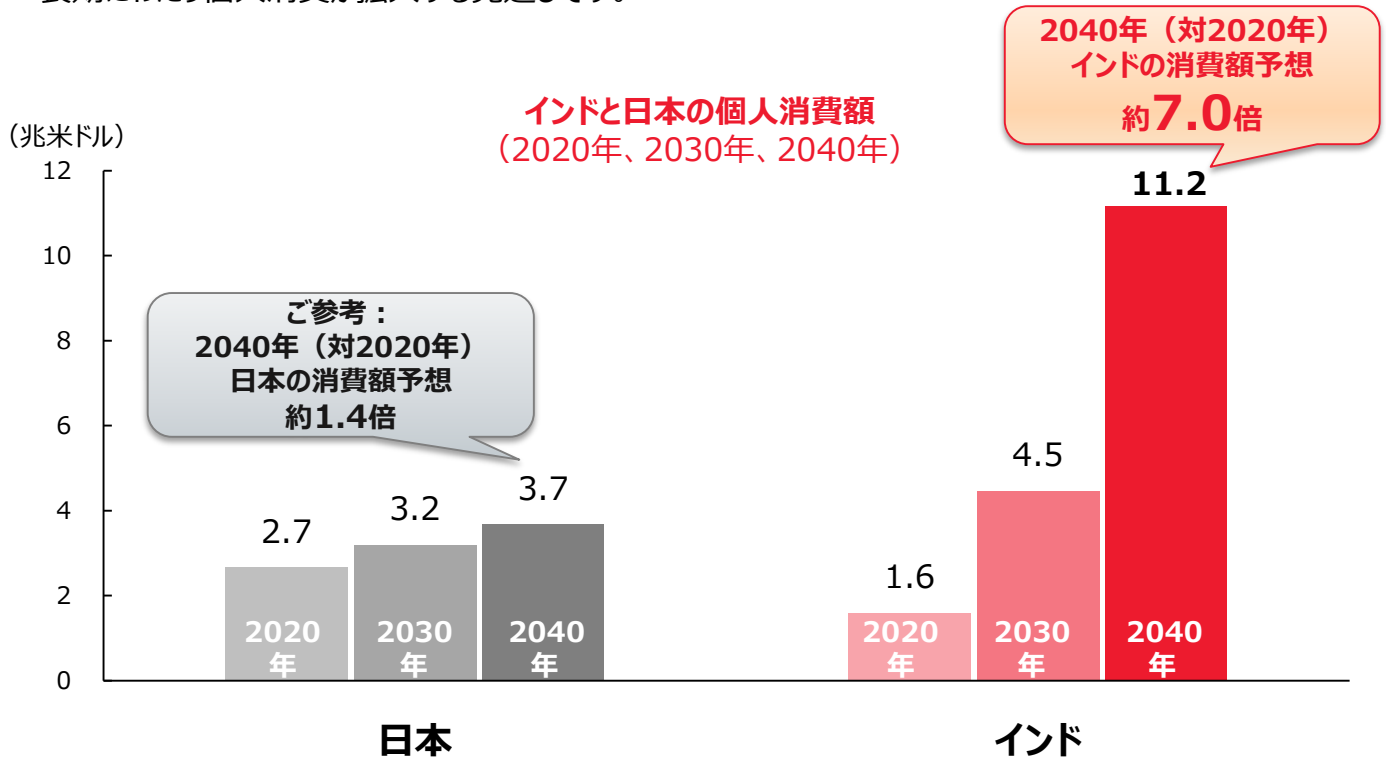
出所：内閣府、Euromonitorのデータに基づきイーストスプリング・インベストメント作成。

Point

2 インド経済をけん引する個人消費



- 長期にわたり個人消費が拡大する見通しです。



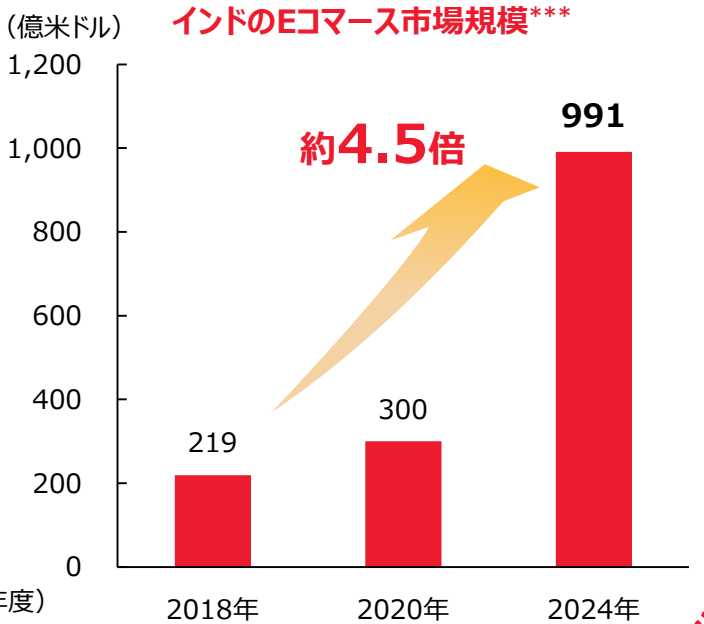
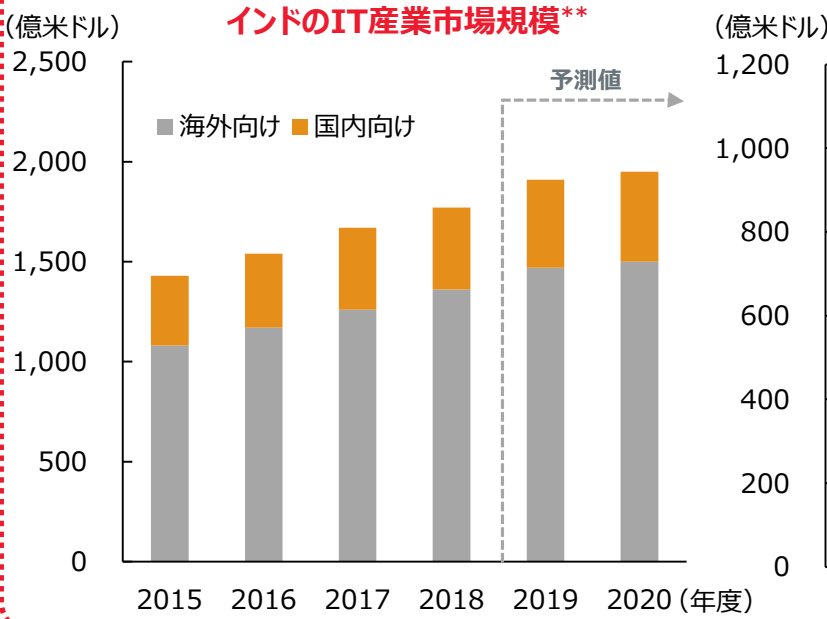
出所：Euromonitorのデータに基づきイーストスプリング・インベストメント作成。2030年以降は予測値。

Point

3 急成長するインドのIT産業



- インドのIT産業は海外向けを中心に拡大しています。
- エコマース市場も拡大が予想されます。インド政府は「デジタル・インド」*計画を通じて2025年までに約1兆米ドルのオンライン経済の創出を目指しています。



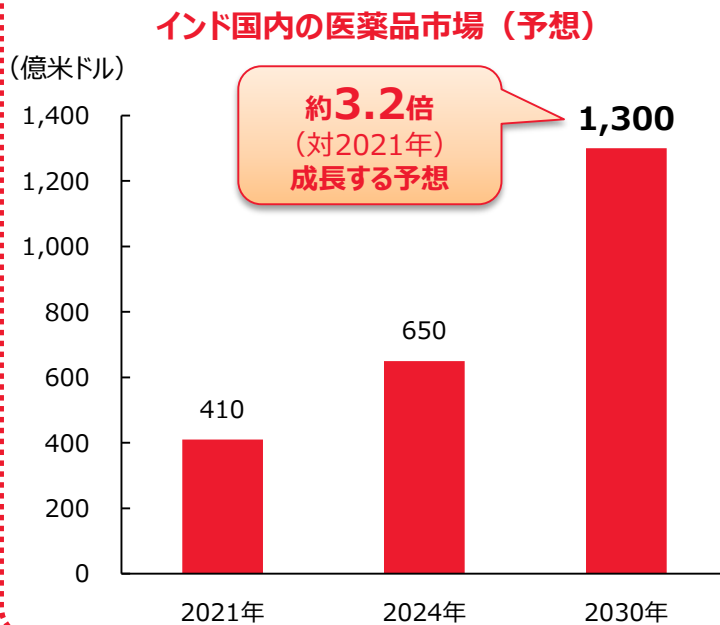
出所：IBEFのデータに基づきイーストスプリング・インベストメント作成。*インド政府による様々な分野をデジタル化することによりインドを知識経済社会へ変革する計画。**2019年以降は予測値。***2020年、2024年は予測値。 ※インドの会計年度は4月から翌年3月まで。例えば2020年度は2020年4月から2021年3月まで。

Point

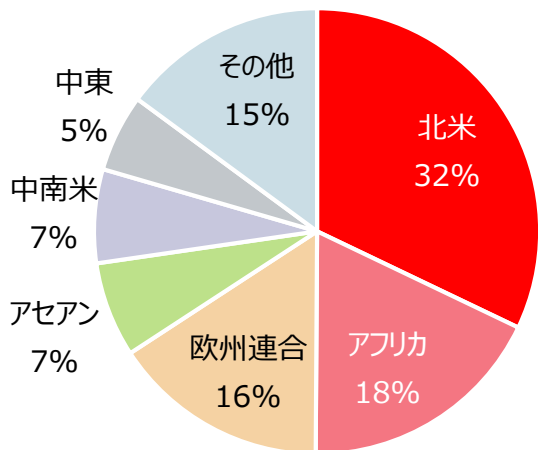
3 高い競争力をもつインドの医薬品市場



- インドは医薬品生産量で世界3位です。また国内市場は今後10年で約3.2倍になると予想されています。
- ジェネリック医薬品の製造では世界最大で、世界のジェネリック医薬品の輸出の約20%を占めています。



インドの医薬品主要輸出先 (2019年度)



世界200以上の国・地域に輸出

出所：IBEFのデータに基づきイーストスプリング・インベストメント作成。

<当資料に関してご留意いただきたい事項> ○当資料は、イーストスプリング・インベストメント株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがあります。○当資料で使用するグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。